

宇和島城歴史年表

時代	年号	西暦	主な出来事
安土・桃山	天正 3	1575	西園寺宣久(さいおんじのぶひさ)、板島丸串(いたじままるくし)城(※宇和島城の旧称)の城主となる
	天正 15	1587	戸田勝隆(とだかつたか)、宇和・喜多両郡に封ぜられる
	文禄 4	1595	藤堂高虎、宇和郡7万石に封ぜられ、板島丸串城を本城とする
	慶長 元	1596	高虎、板島城(板島丸串城)の築城(修築)を始める ※中世の頃は、板島という地名が使用されていた
	慶長 6	1601	板島城の築城工事完成
	江戸	慶長 13	1608
慶長 18		1613	信高改易され、宇和郡10万石は高虎預かりとなる
慶長 19		1614	12月28日、伊達秀宗(ひでむね)、宇和郡10万石に封ぜられ、翌年3月入部 ※この頃より板島から宇和島という地名が使用され始める
明暦 3		1657	秀宗の五男、宗純(むねずみ)が分知願いを出し、吉田3万石を分知。宇和島領は7万石となる 秀宗隠居し、二男宗利(むねとし)が2代藩主となる
万治 元		1658	6月8日、秀宗死去
寛文 4		1664	城普請(寛文の大改修)着手、寛文11年落成する
寛文 6		1666	天守、追手門完成
元禄 6		1693	宗利隠居し、宗賛(むねよし)が3代藩主となる
元禄 9		1696	徳川幕府から宇和島領7万石を10万石に直すことを許可される
正徳 元		1711	宗賛死去し、村年(むらとし)が4代藩主となる
享保 20		1735	村年死去し、村候(むらとき)が5代藩主となる
寛政 6		1794	村候死去し、村寿(むらなが)が6代藩主となる
文政 7		1824	村寿隠居し、宗紀(むねただ)が7代藩主となる
弘化 元		1844	宗紀隠居し、宗城(むねなり)が8代藩主となる
安政 5		1858	宗城隠居し、宗徳(むねえ)が9代藩主となる
文久 3		1863	7代宗紀、浜御殿の一角に隠居所として南御殿を築造し、居を移す
慶応 2		1866	天赦園完成
明治		明治 2	1869
	明治 4	1871	大阪鎮台の所管となる
	明治 22	1889	伊達家に払い下げられる
昭和	昭和 9	1934	天守と追手門、国宝(現行の重要文化財相当)に指定される
	昭和 12	1934	宇和島城が国の史跡に指定される
	昭和 20	1945	戦災により追手門が焼失する
	昭和 24	1949	天守と城山の大部分が宇和島市に寄付される
	昭和 25	1950	文化財保護法施行により、天守が重要文化財となる
	昭和 35	1960	天守を解体修理(昭和37年修理完了)
平成	平成 28	2016	御作事跡等が国の史跡に追加指定される

交通手引(アクセス)



【JRでお越しの方】

- ・松山駅-宇和島駅
約1時間20分(※特急利用)
 - ・駅から登城口まで約1km
- ### 【車でお越しの方】
- ・松山IC-宇和島朝日IC
約1時間30分
 - ・ICから城山下駐車場まで約1km

●登城口(城山下駐車場)から天守までは、登り坂約800mの徒歩移動となります。天守に至る石段や登城道は、スロープ設置などバリアフリー対応にはなっておりません。国重要文化財となる天守内部も同様です。

ご案内(観覧料・開城時間など)

名称	開城・開館時間	料金	定休日
天守	3月~10月 9:00~17:00	通常料金	無休
	11月~2月 9:00~16:00	200円	
城山郷土館	【Tel】 天守 0895-22-2832 城山郷土館 0895-22-3904	65歳以上 団体(20名以上)	160円
		中学生以下 障がい者手帳 (介助者1名を含む)	無料
宇和島城(城山公園)	3月~10月 6:00~18:30 11月~2月 6:00~17:00	無料	
城山下駐車場	普通車のみ	100円/時間	

●宇和島市教育委員会
文化・スポーツ課
【Tel】0895-24-1111(代表)
〒798-8601
愛媛県宇和島市曙町1番地

●宇和島市観光物産協会
【Tel】0895-49-5700
〒798-0060
愛媛県宇和島市丸之内5丁目1番4号



宇和島城公式HP



2021年7月第1版第1刷



宇和島城

現存十二天守【国重要文化財・国史跡】



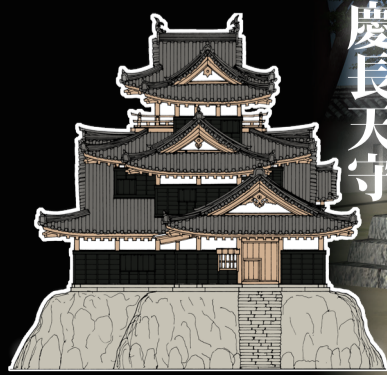
宇和島 uwajima

南海の伊達 宇和島伊達家九代の居城

現存12天守の1つがそびえ立つ宇和島城は、慶長20(1615)年に伊達政宗の長男、秀宗が入城後、明治を迎えるまで"西国の伊達"9代の居城でした。

国が定める「重要文化財(建造物)」に指定されている天守は、宇和島伊達家2代藩主の宗利が寛文6(1666)年頃に建築したものです(寛文天守)。

かつて同所には、築城の名手として有名な藤堂高虎が慶長6(1601)年に建築した天守があり、幕府には修理の名目で届出をしましたが、天守台の石垣を含めて宗利により全面的に建て直されたため、その姿(慶長天守)は絵図でしか窺い知ることができません。



復元：三浦正幸 / 着色：佐藤大規

慶長天守

天守 DATA

構造	層塔型3重3階	
全高	20.94m	
高さ	鯨 1.47m	
礎石~大棟	15.72m	
天守台	3.75m	
幅	1階	11.82m
	2階	9.46m
	3階	7.31m
	玄閣	3.96m
面積	1階軒	212.75㎡
	玄閣軒	21.65㎡

出典：『重要文化財宇和島城天守修理工事報告書』1942年



伊達宗利築 寛文天守

宇和島伊達家2代宗利が寛文6年(1666)頃に改修、3重3階総塗籠式、層塔型の天守です。

改修とありますが、実際には高虎が岩盤上に建築した望楼型天守を撤去して、石垣の天守台を持つ当時の最新式となる層塔型天守となり、新造したといっても過言ではありません。

各階の装飾性の高い破風や懸魚などから太平の世を象徴するものとして評されるとともに、小さいながらも御殿建築の意匠が随所に見られ、非常に格式を重んじた造りとなっています。

万延元年(1860)、昭和35年(1960)に大修理を受けていますが、昔の姿を今もなお伝えて



宇和島城天守を詳しく知りたい方はこちらをチェック!



宇和島城天守について

華麗さと格式を併せ持つ天守

スマートフォンアプリ『VR宇和島城』を利用ください!

伊達秀宗 所用甲冑

地形を巧みに活かした縄張

宗利は天守のほかに、櫓や門なども改修しましたが、堀や石垣などの縄張は高虎のものをほぼ引き継いで、水城の性格を併せ持った平山城となっています。

2辺が海に面し、3辺が海水を引き入れた堀となっている五角形の縄張りは、幕府隠密が四角形と見誤って報告したという史実から、後に高虎の巧みな縄張として語られることとなる「空角の縄張」

の話が生まれました。

しかし、宇和島湾内は江戸時代を通じて、徐々に新田開発などによって埋め立てが進み、幕末頃には周囲はほぼ埋め立てられました。明治以降、残る堀もすべて埋められ、その名残は今の町割りや道路に見ることができます。

また、石垣については、高虎から伊達家のもので新旧さまざまな積み方を見ることができます。



元禄16年宇和島城下絵図(公財)宇和島伊達文化保存会蔵

宇和島城の建築物

見出しの家紋は軒瓦・鬼瓦などの紋様に対応

上り立ち門(市指定文化財)

城山南側の登城口に位置し、武家の正門とされる薬医門形式となっています。

現存する薬医門としては最大級であるだけでなく、科学的な年代分析や梁の形などの構造上の諸特徴から、創建年代が高虎の慶長期まで遡り、国内に現存する薬医門では最古となる可能性が指摘されている貴重な建造物です。



藩老桑折氏武家長屋門(市指定文化財・移築)

城山東北側の登城口に位置する長屋門です。筆頭家老の桑折家屋敷地に残されていたものを、国道拡幅に伴って昭和27年桑折家より市が譲渡を受け、現位置に移築しました。

元は間口長さが35mもありましたが、現地に合わせて向かって左側の長屋の大部分は取り除かれました。市内には数少ない武家屋敷の建造物です。



城山郷土館(旧山里倉庫・移築)

弘化2(1845)年、三之丸に調練場を整備した際に武器庫として建てられた土蔵で、現存例の少ない稀少な建物です。

昭和41年、伊達家より譲渡され、城山藤兵衛丸に移築、城山郷土館の名称で内部を公開しています。

伊達宗城、穂積陳重をはじめとする宇和島ゆかりの偉人のほか、宇和島を舞台とした文学作品を紹介する展示を行っています。



宇和島城の郭と石垣

写真右上の番号は「城山まっぷ」と対応

本丸

城内では天守をはじめ、もっとも多く建築物が備え付けられた郭となります。

石垣も幕末頃に「切込いぎ」で修理された部分と元々の「野面積み」の部分が同じ面で見ることが出来ます。



二之丸

天守の建つ本丸の最終防衛施設としてその直前に置かれた郭で帯曲輪と連結して本丸を取り囲むように配置されています。本丸までには櫓形門(一の門)、二の門、三の門を通らなくてはたどりつけませんでした。



三之丸跡

内堀をめぐらし、周囲を石垣と土塀で囲んだ堅固な郭です。慶長6(1601)年から延宝4(1676)年まで御殿が置かれた藩の中枢でした。御殿機能の移転後は側室の休息所等に使用されましたが、文久3

(1863)年には取り壊され、調練場として使われました。近代以降、堀は埋められて市街化し、目に見える遺構は山裾の石垣のみになりました。



三之丸御殿再現 CG(VR宇和島城より)

藤兵衛丸

高虎の創建時期となる慶長6年頃の古い石垣の特徴をとどめた「野面積み」の石垣です。

城内では2番目、築造当時は日本有数の高さでした。高虎の石垣の特徴である反りを持たない直線的な勾配で築かれていることが良くわかる石垣です。



長門丸

長門丸の名称の由来は、高虎配下の重臣の名前だとされ、伊達家の居城となった後もそのまま使用されました。石垣には算木積み(かんぶん)が用いられています。寛文年間(1661~1673)の大改修のものと考えています。



代右衛門丸

名前の由来は藤堂高虎の家臣矢倉大右衛門(※)と考えられています。

石垣は、城内最古のものから最新のものまで、バリエーションに富んでいます。幕末に修理された石垣の高さは15mあり、城内で最も高い石垣となります。(※)伊達家の資料では「代」の文字が使われています。



井戸丸

深さ約11mの井戸を備えた郭です。城内の水場を守るため堅牢な造りとなっています。

幕末に作り直した記録が残っていますが、その記録が井戸縁の石に彫られており、城内唯一の金石文です。



式部丸

井戸丸と並ぶ井戸を備えた郭ですが、江戸時代前半の絵図には郭名の記載が無く、江戸時代後半になって伊達家の家臣「山崎式部」の名前から式部丸と呼ばれるようになったと考えられています。

横矢掛かりのための石垣の折れが顕著です。



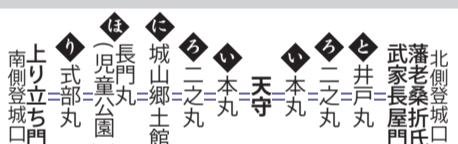
城山まっぷ

正徳元(1711)年の絵図や調査成果をもとに作成したものです

- 現存する建物
- 消失した建物
- 移築された建物
- 今の公共施設など
- 登城道
- 道・郭・藩の施設など
- 侍屋敷など
- 石垣
- 土塁
- 山の斜面(樹木)
- 堀・海
- 周辺の主な建物
- 説明板・解説板
- トイレ
- 駐車場

- 本丸
- 二之丸
- 三之丸
- 藤兵衛丸
- 長門丸
- 代右衛門丸
- 井戸丸
- 帯曲輪
- 式部丸

見学順路



宇和島城の石垣を詳しく知りたい方はチェック!



宇和島城HP
石垣指南

くるわ・やぐらの表記について

一般的な用語としては「郭・櫓」ですが、伊達家の資料では「曲輪・矢倉」が使用されており、城内施設の固有名称として使い分けしています。